

feature interview

DJ 樹美 & JUNKO

フイメールDJと言えばこの二人、DJ樹美 & JUNKO初登場です。注目している方も多いのでは？とにかくインタビューを要チェック！

■お二人がDJを始めたきっかけは？

樹美(以下、樹)：高校の時に親友だった女の子がHIP HOPのダンスをやっている。自分はダンスには興味は無かったんですけど、HIP HOPの曲とかノリに興味を持って、そこからHIP HOPを聴くようになったんですね。その子がダンスで使っている音源にスクラッチが入っていて、その音に「これはなんだ？」って凄く衝撃を受けて。それで、自分もレコードを擦ってスクラッチの音を出したいなって思ったのがきっかけですね。最初はひたすらスクラッチの練習ばかりしてましたね。ターンテーブルを買って、HIP HOPの音に合わせてひたすらスクラッチの練習をしました。JUNKO(以下、J)：HIP HOPを好きになったきっかけは「California Love」ですね。この曲を聴いて「これ、今までに聴いた事が無い音楽だな」というのから始まり、クラブに行ってみたくて。クラブで何か出来るものはないかなって思って、最初はダンススクールに行ったんですけど、鈍くてついていけなくて1日でやめて(笑)。その時、DJしてる人を好きになって、ちょうど高校を卒業する頃でまとまったお金があって、「このお金どうしよう」って思った時にターンテーブルを買ったんですね。趣味でやろうかなって思って。

■今まで続けてこれた理由は？

樹：DJって、ホントに人それぞれのプレイがあって、同じ曲でも繋ぎ方だったり流れが全然違うように聴こえてくれないですか。ノリとかにもよるし。ある時は凄くテンションが上がるけど、「このDJは合わないな」って思う所もあったり。もっていき方とかが自分のそれと違ったら楽しめなくなっちゃうし、逆に自分がそんなに好きじゃなかった曲でも、そのDJのもっていき方でめっちゃテンションがあがったりとかして。そういう意味で、DJってホントに面白いなって感じてるんですよ。それがDJをやめられない一番の理由かなって思います。

自分でも、お客さんを気持ちよく踊らせてテンションを上げさせたりできるんだって、日々思ってますね。J：私もそれはいつも思ってますね。それに、練習すると練習しただけ反応が見えるじゃないですか。練習した時は、お客さんに「良かったですよ」って言ってもらえたりする反面、ちょっとサボるとそれがお客さんに伝わったり。自分がやった事に対して反応が返ってくるから、それが楽しくてやめられないですね。やったらやっただけ結果が出るし。

■女性DJとして意識していることは？

樹：私なんかは、普通にプレイしても「最初聴いた時、男がプレイしてるのかと思った」ってよく言われるんですよ。私は男っぽい選曲が好きだったりするから、そう言われるのはイヤじゃないんですけど、でも、聴いている人からすると、「女の子が回ってたんだ…」って凄く印象に残るだろうし、印象に残ってもらえるっていう点ではプラスになっているのかなって思います。自分的には、男っぽい選曲は意識してやっているわけじゃなくて、たまたま好きでやっている事がそういうふうに見えちゃってるだけだと思うんですけどね。聴いている人にとっては、女性DJと男性DJのイメージがあるんだと思うんですけど、そのギャップがあるからよけいに「男っぽいプレイ」って言われるのかもしれないですけど(笑)。昔から男っぽいHIP HOPが好きだから、そのまま自分の色を出していきたいと思ってるので、「たまたま私は女性だったんだよ」って言いたい位ですね(笑)。

J：私はけっこう意識してやっていますね。女の子が男らしい曲をかけるギャップを「見て、見て」みたいな所があって。元々、好きな曲がゴリゴリな曲っていうのもあって、土曜日の一番いい時間帯は「イケイケに騒ごうよ」という空気にしたいなって思ってますけど、それが「女の子がやってるんだ」っていうギャップも合わせて全体で雰囲気を作っていく

たいなって思ってるんですよ。DJだけを見て、「男っぽい」とか「黒人っぽい」とか言われるのが凄く嬉しかったりするから、男っぽい曲を自分なりに料理して、もっと男らしくかけたくて。お客さんには、その男らしいプレイをいいなって思ってもらえて、でもブースを見たら普通の女の子がDJしてるよっていうギャップを楽しんでもらえてるかなって思ってます。

■世間的には女性DJが認知されてきていますが、もっともみんなに知ってもらうためにこの先考えている事はありますか？

樹：私は今、blogをやったりするんですけど、普段HIP HOPを聴かない人でもそのblogを見て「普通の女の子じゃん」と思ってもらえればと思いますよね。そういう所から「DJ樹美ってこういう人なんだ」とちょっとずつ知ってもらえたらなって。DJとしての私を知らなくても、ファッションでも何でも共感してもらえて、そこから色んな人が入ってきて自分の事を知ってくれたらいいなって思ってます。

あとはもちろん、CDのリリースはしていけたらって思ってます。CDは色んな人に聴いてもらえるわけだし。今回リリースしたCDは女性雑誌とのコラボレーションだったので、女の子に対してのMIXを意識してやらなきゃいけない。だから、普段自分がクラブでプレイしている色を100%は出せなかったんですよ。でも、それによって、雑誌の読者で私の事を知らない子たちがCDを聴いて知ってくれて、そこからクラブに来てくれたりってふうに繋がっていくと思うんですね。だから、CDは普段の自分の色とは違う「挑戦」みたいな感じでやっていきたいです。全く自分の色が出せないものはやりたくないけど、自分のプレイとは全く違ったものでも、それを聴いて私の事を知ってくれて、それがきっかけでクラブに来たらまた違ったプレイをしているのを見て違う印象を持ってもらったりもできるんで。CDを出す事によって、お客さんの層が広がるんだしたらそれが一番理想的ですよ。

J：私がMIX CDをやった時は自分の色とはちょっと違うR&Bのものだったけど、別に嫌いなものはないので。私もまだまだ未熟だったから、今聴いてみると「あれ？」って思う所があるけど、当時の自分の精一杯でどれくらい自分を出せるかっていう感じでやっただけですよ。でも、CDを出す前はクラブDJとしてノルマとかもありながらDJしてたものが、CDを出した事でいきなり地方に行けたり、全然知らない人からオファーが来たりとかしたから、影響力がこんなにあるんだってビックリしました。それだけ名前が広がるものなんだなって。「凄いなんですね」って言われる時もあれば、「まだまだじゃん」って言われる時もあるって、良くも悪くも注目されますよね。

樹：私なんかは、この前リリースして雑誌にも取り上げられた事で、高校の同級生から連絡がきて(笑)。ずっと連絡が無かったのに、いきなり「雑誌見たけど樹美ちゃんだよね?」「プチ同窓会でもやろうか」と話になって(笑)。

■女性DJならではの苦労やエピソードはありますか？

樹：「女のくせに」って思う人はいるのかもしれないけど、そう思う人には勝手に言わせておいて感じですね。その分、応援して支えてくれる人達がいるし、だからこそどんどん自分を高めていけるって思ってるんで。でも、普通の女の子に比べたら、「レコード買わなきゃいけないから」って我慢しなきゃいけない事が今まで相当あったと思います。「洋服が欲しいんだけど、針買ひ替えなきゃ」とか、どうしても欲しいレコードが見つかって、中古で結構いい値段がしたんだけど絶対欲しくて「ちょっと靴を諦めるか」とか(笑)。どうしてもレコードとかヘッドフォンとかDJに関するものが最優先なんで、でももちろんオシャレもしたい



しってというところの葛藤はかなりありますね。やっぱり見た目も大事だし(笑)。

J：若い女の子たちが、自分たちの事を見て「いいなあ」って思ってくれるなら、やっぱりそれなりにファッションもついていかなきゃいけないと思うし、クラブにいる人はみんな派手だから、その中でもやっぱりDJは目立たないと、とも思うし。DJなんだから、お客さんの中に紛れちゃうんじゃないかと、ちょっとでも目立ってなきゃいけないかなって思いますよ。やり過ぎて「DJです、アーティストです」ってなっちゃうのもダメだとは思いますが、普段からある程度意識して綺麗にしてないって思ってますね。

■BX CAFEで女性DJだけの「HOT CANDY」をやっていますが、今後どういったパーティーにしていきたいですか？

樹：普段はゴリゴリの選曲だったり新譜で盛り上げている事が多いんですけど、「HOT CANDY」に関してはBX CAFEでのパーティーだし2Fは「NO DOUBT」という事もあって、ガラッと色を変えたくなって思ってますね。普段私たちのプレイを聴いている人が「HOT CANDY」で私たちのプレイを見て、「普段と全然違う選曲してる」という発見があったりしてくれればいいなって思って、普段プレイしている自分とは違う部分を意識して出すようにしています。そこでお客さんに気持ちよく踊って欲しいし、楽しんで欲しいし、幅広い年齢層の人たちに楽しんでもらえるようなパーティーにしていきたいですね。普段のプレイでは制限されちゃう部分もあるんですけど、「HOT CANDY」に関してはかなり開放的にプレイできて。ジャンルの幅が広がると言うか、偏らない選曲ができるし、普段かけられない曲もかける事ができるので、その中で4人でうまく流れを作っていけたらって思ってます。4人はそれぞれ違う色でも、全体的に凄くいい流れにしていくって思っていますね。フライヤーを見たらめっちゃくちゃ楽しそうだけど、来てくれるお客さんにも「HOT CANDY」は楽しい」ってイメージを持ってもらいたいし、やっぱりやってみて側が楽しんでないとお客さんも楽しめないから、明るくて楽しい、いい雰囲気で作っていききたいですね。

J：「HOT CANDY」はBX CAFEでのパーティーだから、やっぱり2Fと同じ感じではいけないって思う所があって。だからと言って、2Fでかかっている曲をかけないっていうわけではなくて、同じ曲でも自分の中で使い分けて、同じ新譜でもガラッと違った雰囲気で作られたらいいなって思ってます。同じ曲をかけるにしても、「HOT CANDY」でかけるにはフ

ライヤーの雰囲気そのままに華やかで楽しい雰囲気で作れないかなって思うし。普段は男らしいイメージを出していいから、それは違う華やかな雰囲気を出していいから。普段呼ばれるパーティーは男っぽいDJが集まる華やかじゃないものが多い分、「HOT CANDY」では違う部分を出して、「上手く混ぜると、こういうふうになりますよ」というのを出していいからって思ってます。

樹：4人の中でお互い刺激を与え合ったりしてるから、今後は選曲的な部分に関しても4人で深く話せたらいいなって思っていますね。まだ探り探りの状態だけど、まだまだどうなるか楽しみにしています。

■DJを目指している女の子たちにメッセージを。

樹：人との出会いを大事にして欲しいですね。どんな仕事でもそうだけど、一人では絶対上がってはいけないし、誰かの支えがあるからやっているとわかって。後は、色んな人のDJを少しでも多く聴いて勉強したらこうしたい」っていう自分らしさを見つけてもらえたらいいと思います。女の子のDJは実際に増えてるけど、辛い事が多くてやめていっちゃう人が多いのも事実で。私も今に辛い事はあるけど、やっぱり好きだから続けられるわけだし、一度や二度で諦めずに頑張りたいですね。自分が好きでやっていると、人と人の繋がりを大事にしてやれば、いつかいいふうになると思うんで頑張って下さい。

J：女の子だけじゃなくDJをやっているみんなに言える事だけど、一番最初は好きだから始めたわけだし、仕事になってくると当然色んな事があってイヤになったりやめたくなくなったりするかもしれないけど、すぐに諦めて嫌いになるのはもったいないと思うんですよ。好きで始めた事を嫌いになって欲しくないから、どうすれば好きでいられるかを考えてやってみてもらえたらいいと思います。好きじゃないとアイディアも浮かばないし。好きで始めたその時の気持ちを忘れないで欲しいですね。後は続ける事。ダンサーとかは体力に限界もあるだろうから続けるのが難しくなる事もあるけど、DJには限界が無いので。

樹：ホント、経験していくに従って自分なりのスタイルが確立していくし、そこが面白みでもあるから、すぐに諦めないで続けて欲しいですね。

J：自分達も辛い事もあったけど、そこを越えると楽しい事もあるし、もっともっと良くなるから。「辛いのは今だけ」って思って頑張って欲しいですね。樹&J：みんなで一緒に頑張りましょう。!!